

十和田市現代美術館 2015年 次回企画展のご案内

春を待ちながら

－ やがて色づく風景をもとめて －

Waiting for spring - Towards a landscape changing color -

会期=2015年2月28日(土) - 4月5日(日)

[基本情報]

展覧会名=	春を待ちながら
副題名=	やがて色づく風景をもとめて
展覧会英名=	Waiting for spring
副題英名=	Towards a landscape changing color
会期=	2015年2月28日(土) - 4月5日(日)
会場=	十和田市現代美術館
開館時間=	9:00-17:00 (入場は閉館の30分前まで)
休館日=	月曜日 (月曜が祝日の場合はその翌日)
観覧料=	企画展+常設展セット券1000円、団体(20名以上)100円引き、高校生以下無料。
主催=	十和田市現代美術館
協力=	株式会社カシマ、株式会社サンヨーソーイング、株式会社レントゲンヴェルケ、川崎市市民ミュージアム、HIGURE 17-15cas
後援=	東奥日報社、デーリー東北新聞社、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、十和田市教育委員会、

展覧会概要

北国の冬は、雪がすべてをおおい隠し、寒く、暗く、厳しいもの。

すべては固まっているかのように見える。

しかし、世界の動きは止んではいない。

陽が少しずつ伸びてくるように、人も淡々と時を過ごしやがて外に飛び出すことを夢見ている。

春は、変わる時。

緑が芽吹き、鳥たちの声が木々に響きわたり、世界が色づく。

固まっていたものがゆるりと動き出し、振れ合いながらやがて生の大きな流れになってゆく。

冬のあいだにこつこつと繰り返していたこと、積み重ねていたことは、手の温もりを宿しながらやがて新しい世界を見せはじめるだろう。そうした日々密やかに流れる脈動が、いつの間にか世界を変えてみせる。

春という季節と変わることを重ね合わせ、この雪深い東北の地より密やかな営みから生まれる表現をお届けします。

- ◇ 本展覧会は、十和田市現代美術館が主催する市民の方々と展覧会づくりを分かち合う講座「きみもキュレーター」と連動して行われるものです。講座では本展キュレーターが、受講者とともにテーマやアーティスト、展示案などについてディスカッションを行い、本展制作の過程を共有します。

本展のみどころ

- 1、会期中毎日行われる阿部幸子によるパフォーマンスは、必見。雪景色を連想させる空間に、ハサミで紙を切りつづける音が響き渡ります。パフォーマンスの時間を美術館ウェブサイト等でご確認の上、ご来場ください。
- 2、野村和弘の『笑う祭壇』は、ボタンを投げて的に乗せるゲームのような作品。どなたでもご参加いただけます。また、いらなくなったボタンをお持ちいただいて、ゲームにご参加いただくこともできます。（ボタンは、作品の一部になりますので、ご返却できません。）
- 3、野村和弘による細かい点によるドローイングをぜひ探し当ててください。何もないと思って通り過ぎてしまわないようご注意ください。

双子の姉妹、高田安規子・政子の超絶した技巧による彫刻作品は、物そのものよりもそれを生み出した繰り返しの行為を想像させます。

参加アーティスト（五十音順）



『RCA 2005年4月 ロンドン Cut Papers #05』 © Gen Sasaki

阿部幸子 Sachiko Abe

福岡県北九州市を拠点に広く国内外で活動している。ギャラリーSOAP（北九州、2005/2010）やローラ・バートレットギャラリー（ロンドン、2005）で個展を行うほか、P.S.1（ニューヨーク 2004）、Liverpool Biennale06『Touched』（リバプール、2010）、シドニービエンナーレ（シドニー、2012）ポンピドゥーセンターメッセ（フランス、2013）などのグループ展にも多数参加している。CutPapers というパフォーマンスを継続して行っており、紙を切る行為の連続が生む崇高な空間づくりが評価されている。

高田安規子・政子 Akiko & Masako Takada

一卵性双生児としての生物学的アイデンティティを拠り所に、二人の差異・共通点を見つめ、人間が生活をする上で共通の基盤にしているはずの常識例えばモノの大きさの尺度、時間感覚についてわれわれの認識に問いを投げかける作品を発表している。ともに、ロンドン大学スレード校美術学部修士課程修了後、水戸芸術館現代美術ギャラリーの『クリテリウム 78』（水戸、2010）での個展のほか、ボルドー現代美術館での『BigMinis』（ボルドー、2010）や東京都現代美術館での『MOTアニュアル2014 フラグメント—未完のはじまり』（東京、2014）などのグループ展に参加している。

野村和弘 Kazuhiro Nomura

1958年高知県生まれで現在神奈川県在住。1988年に東京芸術大学博士課程を満期修了後、ドイツ学術交流会(DAAD)奨学生として渡独。1990年にデュッセルドルフ美術アカデミーを修了した後、1993年に帰国。「言葉と意味」、「芸術・制度・社会」、「全体と部分」、「完全なもの」と不完全なもの（原型と写し）」等の問題をテーマに、ドローイング、絵画、パフォーマンスやインスタレーション等、形式にとらわれない作品を制作している。小さな画面に5色の極小の点で同一の図柄を描いた禁欲的なタブローのシリーズが、それらの中心を貫いて存在する。

広報についてのお問い合わせ

十和田市現代美術館 豊川、新岡、新居（にい）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com <http://www.towadaartcenter.com>

関連イベント

アーティストトーク

ゲスト：参加アーティスト
モデレーター：小澤慶介（本展キュレーター）
日時：2月28日（土）14:00-15:00
料金：無料（要展覧会チケット・事前申込優先）

*他関連イベントについては随時ウェブサイトにて発表いたします。

ボタン大募集中

野村和弘の作品で使用するボタンを集めています。
古着のボタンや、もう使わなくなったボタン。色や形、大きさはどんなものでも大丈夫です。
ご協力をお願いいたします。会期中も募集いたします。

「きみもキュレーター！」～キュレーターと一緒に展覧会づくりを学ぶアート・スクール～

キュレーターとともに展覧会づくりについて学ぶ講座が、十和田市現代美術館で開講。

キュレーターになるには、どんな知識やスキルがいるの？
展覧会のタイトルやテーマはどうつけるの？
アーティストはどのように選ぶ？

この講座では、2015年2月に開催する展覧会づくりのプロセスに立ち会うことで、そのA to Zを学びます。現代アートが好き人や将来美術館で働こうと考えている人は、展覧会づくりの現場がどのように動いているのかを知る貴重な機会となるでしょう。
キュレーターのリードで、いくつもの疑問を乗り越え、現代アートの魅力に一步近づいてみませんか？

講師：小澤慶介（十和田市現代美術館 チーフキュレーター）
招聘ゲスト講師：飯田志保子（インディペンデント・キュレーター、札幌国際芸術祭 2014アソシエイト・キュレーター）、服部浩之（青森公立大学 国際芸術センター青森 学芸員）、野村和弘（アーティスト）
開講期間：2014年9月13日（土）→2015年2月28日（土）全7回



* 募集は終了しました。

プレス画像

阿部幸子 Sachiko Abe



『Center Pompidou - Metz フランス 2013年2月 Cut Papers #14』 © Julia Waugh

高田安規子・政子 Akiko & Masako Takada



『カットグラス』2014



『円形競技場』2009

野村和弘 Kazuhiro Nomura



『笑う祭壇』2014